

さらなる進化で人気を博した十年

「ばんえい十勝」の誕生から十年。
帯広競馬場は、市内随一の観光名所として
継続的な進化を遂げています。

「とかちむら」オープンと 多彩なイベントが火つけ役

快調な滑り出しを見せた「ばんえい十勝」は、その後も施設の改善や各種イベントの充実に取り組んでいきます。二年目の平成二十年には、競馬場を囲むフェンスを全面改修。それまでは外から競馬場内が見えずに閉鎖的な印象を与えていましたが、

柵越しに場内が見えるようになったことで開放感のある場所へと生まれ変わりました。同年には、帯広の老舗パン屋さん「ますやパン」とのコラボレーションにより、場内カフェ「カフェ・ド・ペルシユロン」をオープンし、三年間にわたって営業。女性や家族連れなど、新規ファン獲得へと裾野を広げる試みを行いました。

さらに長期的視野に立ち、平

成二十二年には敷地内に観光交流拠点施設「とかちむら」を開設。十勝の食と買物が楽しめるようになり、今では帯広の新名所として、広く知られるまでになりました。特に地元農家の野菜を扱う「とかちむら産直市場」は、観光客のみならず地域住民にも愛され、道の駅のような役割を果たしています。

また、初年度から開催されている「とかちばん馬まつり」はその後も回を重ね、今や二万五千人を動員する人気の恒例行事に。中でも馬の代わりに人がそりをひく「ワールド人間ばん馬チャンピオンシップ」は、道内外から参加者が集い、年々パワーアップ。ほかには、ばんえい競馬の舞台裏を紹介するバックヤードツアーや朝調教ツアーが好評を博し、参加者を増やしています。

こうした取り組みの結果、こ

れまで競馬に縁のなかった若い女性や写真愛好家、外国人観光客が訪れるようになり、帯広競馬場は今や、市内随一の集客数を誇る観光スポットにまで発展しました。

メディアへの露出が後押し ネット販売で発売額も上昇

帯広市の単独開催は「世界で唯一、ここでしか見られないばんえい競馬」という付加価値を生み、各種メディアの注目を集めるようになりました。ばんえい競馬を題材にした作品が、次々と世に出たこともばんえいの知名度を高めていきました。

存続の危機に揺れていた時期に公開された映画『雪に願うこと』に続き、平成二十四年にはNHKドラマ『大地のファンファーレ』、その翌年には大ベストセラー漫画『銀の匙 Silver Spoon』がアニメ化され、さらに実写映画版も制作されます。

こうしたメディアへの露出が後押しとなって、平成二十五年には、帯広市単独開催七年目にして初の黒字を計上。馬券発売

額も好調に伸びていきました。インターネット販売の割合が年々増えているのも要因のひとつです。

帯広市の競馬業務委託先は、平成二十四年にオッズパーク・ばんえい・マネジメントから道内企業に移管され、オッズパークとはネット販売を通じて協力関係を保っています。

また、同じくばんえい馬券のネット販売を手掛ける楽天競馬と連携し、新たな取り組みも始まりました。楽天競馬におけるばんえい馬券の売り上げの一部を積み立て、設備整備やイベントの協賛などに役立てるというものです。その一環として、平成二十七年にはコース脇のイルミネーションがリニューアルされ、平成二十八年にはファン参加型の新たな表彰制度「ばんえいアワード」が創設されました。「ばんえい十勝」は馬産地・十勝が発信するエンターテイメントとして着実に歩みを進め、今、華やかに十一年目を迎えようとしています。



ビギナーコーナーの開設で、初心者も気軽に投票できるようになった。



今では恒例となった「とかちばん馬まつり」のワールド人間ばん馬チャンピオンシップ。



最高峰レース「ばんえい記念」を盛り上げる陸上自衛隊音楽隊の行進曲。



十勝川河川敷で行われる花火大会の穴場スポットとしても人気。



旧パドック跡に造られた「ふれあい動物園」は子どもたちに人気のスポット（写真は開設当時）。



平成22年8月6日、「とかちむら」がオープン。その後の「ばんえい十勝」のイメージアップと集客に大きく貢献している。



遠方からの参加者も多い朝調教ツアー。